

令和7年8月3日

三里地区

地区別事前復興まちづくり計画 ワークショップ資料

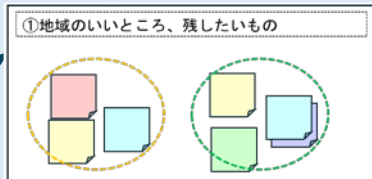
目次

ワークショップの進め方	P2
発災から復興まちづくりの流れ	P4
事前復興まちづくり計画の目的等	P5
地区の現状と災害リスク等	P7
ワーク1：三里のいいところ残したいもの、 普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。	P10
復興パターンの概要説明	P11
ワーク2：復興パターン2案について、意見を共有しましょう。	P17
ワーク3：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。	P18
次回開催のご案内	P19

ワークショップの進め方（全体）

第1回ワークショップ
（計100分（発表時間込み））

- ・事前復興まちづくり計画の目的
- ・地区の現状と課題を説明（10分）

ワーク1
(25分)地区のいいところ・残したいもの
困っていること**Point**被災後の
「ビジョン=目指すべき姿」
へつなげる

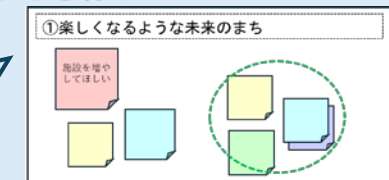
- ・復興パターンの概要説明（10分）

ワーク2
(25分)

復興パターンについて感想

Point復興パターンに対する意見を
述べてもらい
第2回目に修正案を提示

復興パターン	1案 移転対応案	2案 現地再建案
ポイント	・移転先は被災者の意向が尊重される場所の 指定（被災者によるコミュニティの維持 （移転先は旧市街公園周辺と三里中学校周 辺を想定）	・市内から移転する被災者を受け入れる 地域の維持 →被災者を受け入れる地域では自然的な 土壌により、津波安全性の高い住宅地を 確保
活用事業	・防災訓練施設（避難所） ・防災訓練施設（避難所） （災害対策施設）	・土地活用開発事業
メリット	・安全な場所への移転による、生命や財産を 守ることができる →被災者の不安が軽減される	・現地で生活再建、コミュニティの再建 →防災訓練等の安全性向上 →土地活用による被災者の生活が保たれる
デメリット	・商業地域の活性化 ・地域の活性化 ・被災地域の土地の活用 →コミュニティの分離 → 自然環境の悪化	・商業地域の活性化 ・地域の活性化 ・被災地域の土地の活用 →減少など土地の活用
期間比較	○	△
費用比較	○	△

ワーク3
(25分)楽しくなるような未来の
まちを想像する**Point**ゾーニングに対する意見を
引き出す

- ・まとめ（5分）

目標自分の地区の特徴を知ってもらい、
復興パターン・ゾーニングの意見をもらう第2回ワークショップ
（計100分）

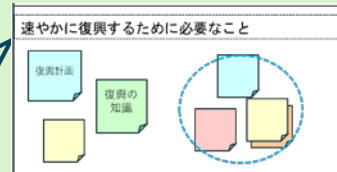
- ・第1回ワークショップ振り返り（10分）（20分）
- ・ワーク1,3を行政がまとめ
・目指すべき姿(案)の提示
意見交換（40分）
- ・修正復興パターンと
ゾーニング案の提示
意見交換（40分）

ワーク4
(20分)

速やかに復興するために必要なこと

Point

- ・被災後の自立再建を
意識してもらう
- ・復興でのすべきことを知って
もらい復興中の活力につなげる



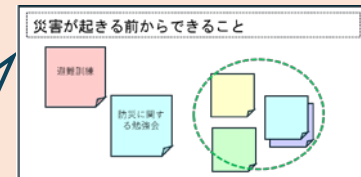
- ・まとめ（10分）

目標復興ビジョンを取りまとめ、
修正復興パターン・ゾーニング
の意見をもらう第3回ワークショップ
（計100分）

- ・第2回ワークショップ振り返り（10分）（40分）
- ・最終案の提示
意見交換（40分）

ワーク5
(30分)

災害が起きる前からできること

Point防災意識の向上
地域での防災活動の啓発

- ・まとめ（20分）

目標

復興パターン・ゾーニング図の取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進めれるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!



被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



○本日のワークショップの進め方

- ①事前復興まちづくり計画の目的
地区の現状と課題（10:05～10:15）



- ②ワーク1：三里のいいところ残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。（10:15～10:40）

- ③復興パターンの概要説明（10:40～10:50）



- ④ワーク2：復興パターン2案について、意見を共有しましょう。

- ⑤ワーク3：楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。（10:50～11:35）

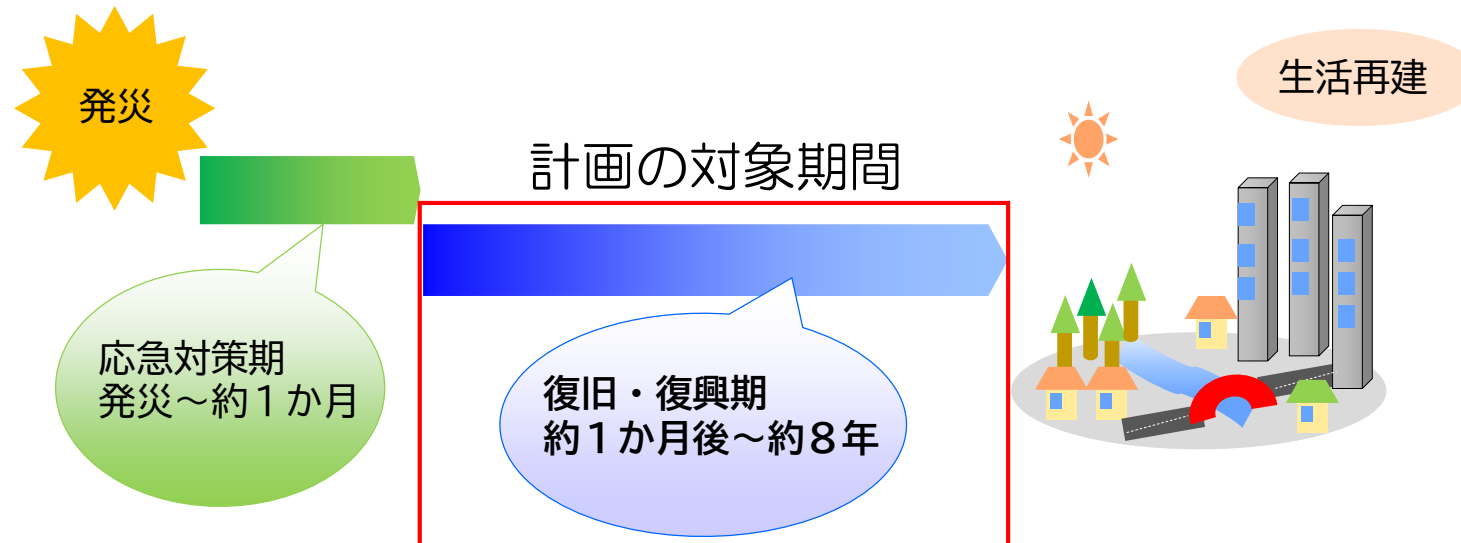
- ⑥まとめ（11:35～11:40）



発災から復興まちづくりまでの流れ



復興までの目標を約8年とし、本計画の対象期間は、発災から約1か月以降の「復旧・復興期」



事前復興まちづくり計画の目的とは

過去の地震では、復興計画の策定が遅れ、復興に多くの時間がかかったため、多くの住民が転出するなど人口減少が起こり、まちの活力が失われた

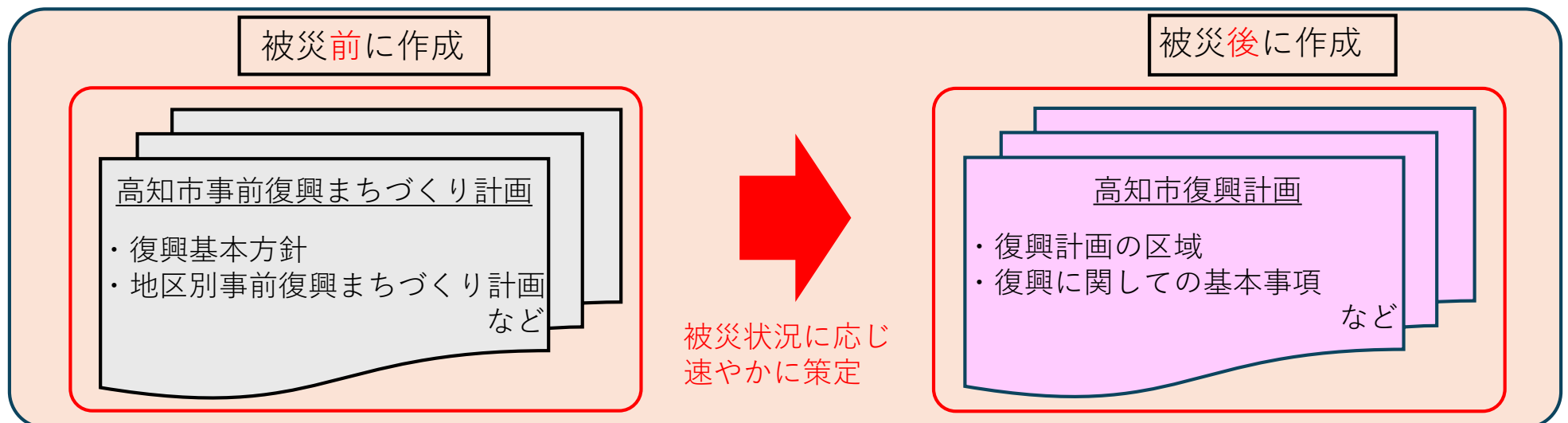


発災前に復興のことを考えておくことで

- ①早期の復旧・復興事業の着手
- ②被災後のまちの復興を早める

事前復興まちづくり計画とは

発生しうる災害を想定し、
事前に復興まちづくりの目標や課題解決のための方策を取りまとめたもの



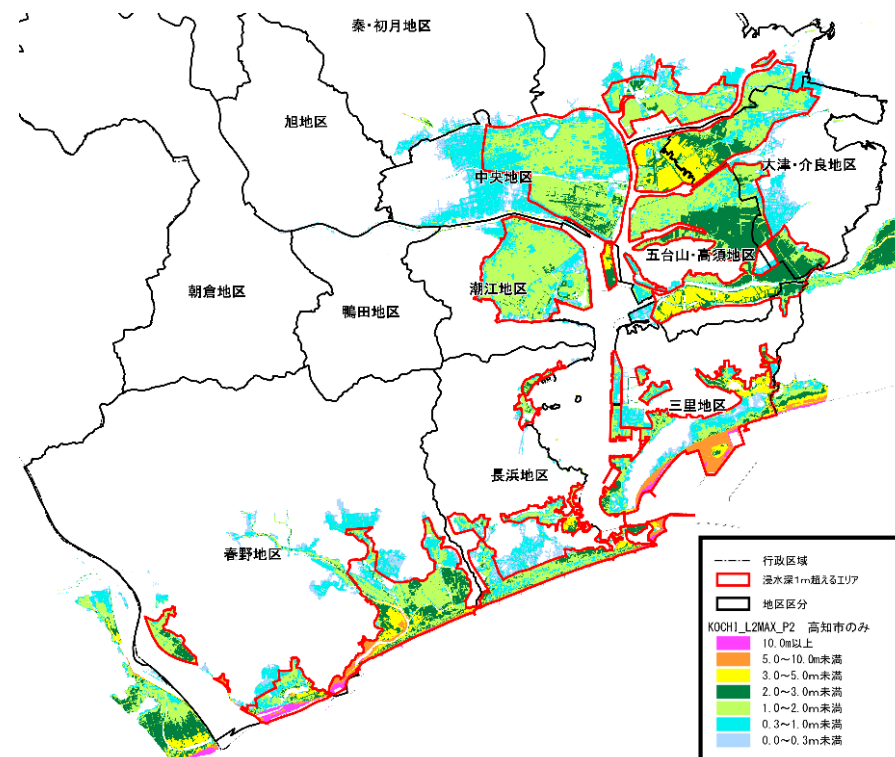
地区別事前復興まちづくり計画とは

地域ごとの特性やリスクに応じて、
具体的な復興まちづくりの方針等を取りまとめたもの

<対象地区及び対象区域>

高知県が令和6年5月に公表した新しい津波浸水シミュレーションを基に、計画策定の対象となる地区を決定。

中央、潮江、長浜、三里、春野、五台山・高須、
大津・介良、布師田・一宮



何を考えるの？

①土地利用

②復興の仕方 など

※復興パターンを確定させるものではない

どうやって進めるの？

市で作ったたたき台を基に、まちのみんなで
話し合おう！

次世代へバトンタッチ



【三里地区の現状】



人口

- 人口（令和7年4月時点）
総数10,334人（65歳以上 3,984人）
- 人口減少率・高齢化率ともに市平均より高い。

土地利用

- 【十津地区】
住宅地が広がり、団地内の接続道路は狭隘である。
- 【種崎・仁井田地区】
古くからの市街地。木造住宅も多く、狭隘な生活道路も見られる。
- 【池地区】
大学や病院など公共施設が整備されている。
- 東部自動車道による高い交通利便性

産業

- 運輸業の事業所・従業者が近年大きく増加している。
- 園芸農業が盛んである。
（グロリオサの生産量が全国1位）
- 高知新港が流通拠点として発展している。
（クルーズ客船の寄港など）



文化

- 仁井田神社の秋祭り
- 地域の歴史や伝統を継承する文化財が存在

【災害リスク】

データを重ね合わせる

＜三里地区の災害リスク等＞

←土地利用現況及び公共施設配置等

←津波浸水想定

←南海トラフ地震の震度

←土砂災害警戒区域等

液状化の危険度状況→

洪水ハザード→

①共通リスク

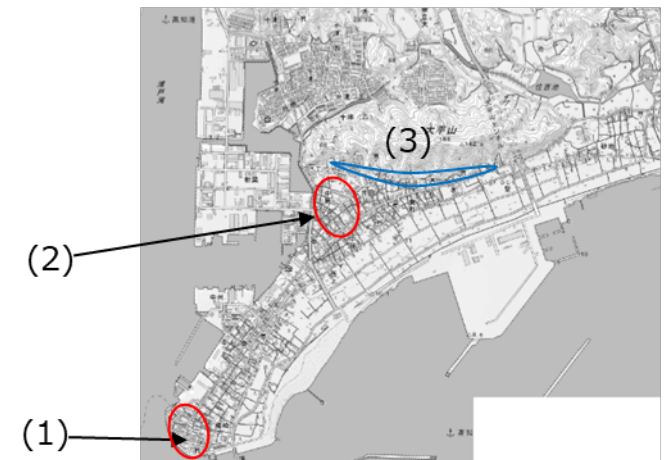
※

- ・地区の大半が浸水深2m未満、一部2mを超える
- ・沿岸部は浸水深5m以上となる箇所も存在
- ・震度7の揺れが予想される地域が存在
- ・沿岸部や農地周辺では液状化の可能性がある
- ・土砂災害警戒区域が分布している

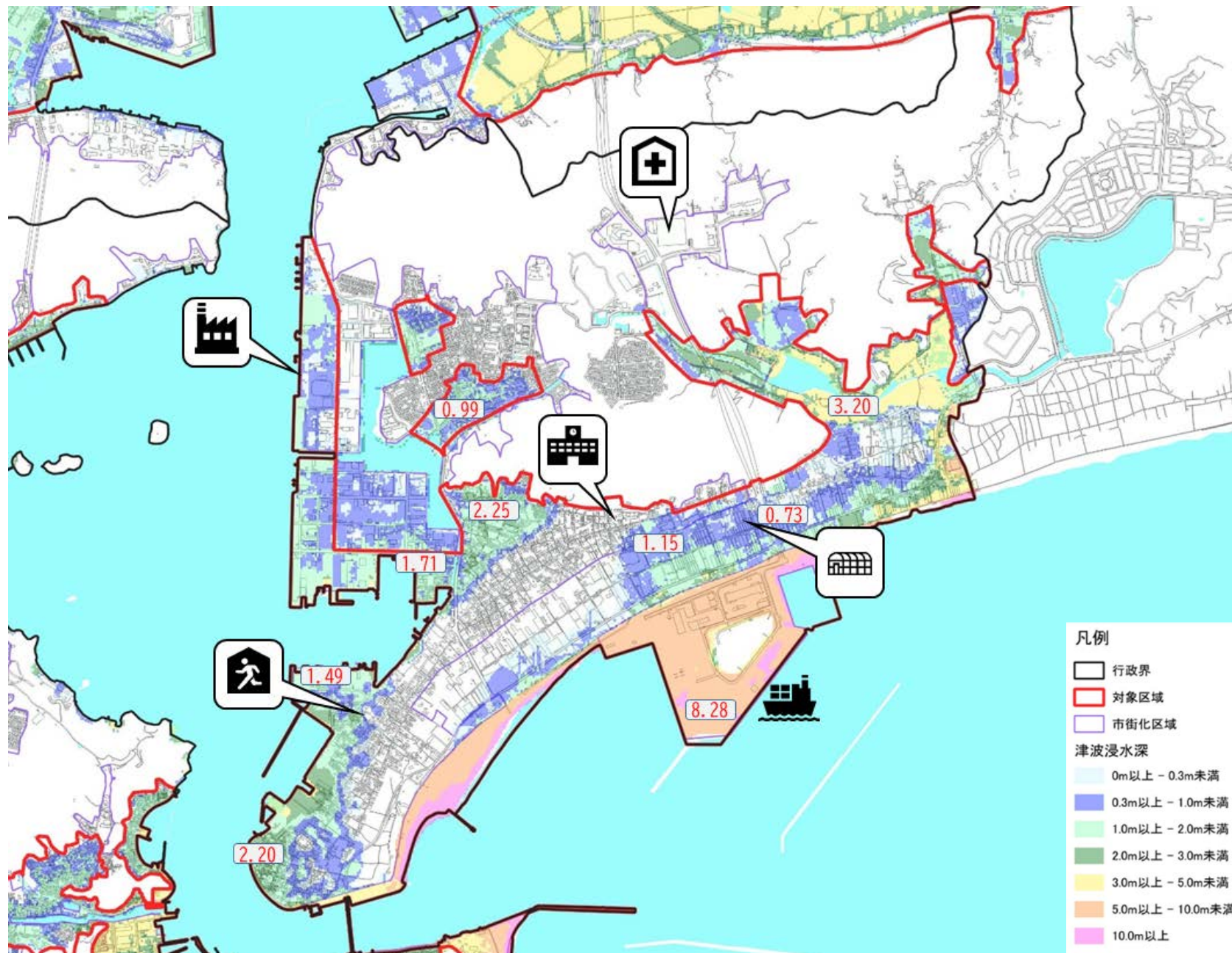
②重点リスク

- (1) 浸水深が2m以上
- (2) 土砂災害警戒区域

※L2津波を想定



高知市で想定される災害について～事前復興まちづくりの津波浸水想定



このシミュレーションは、堤防等の耐震整備が完了している区間及び耐震整備の計画がある区間が「破壊しない」と仮定した場合のものです。

さあ、みんなで話し合ってみよう！

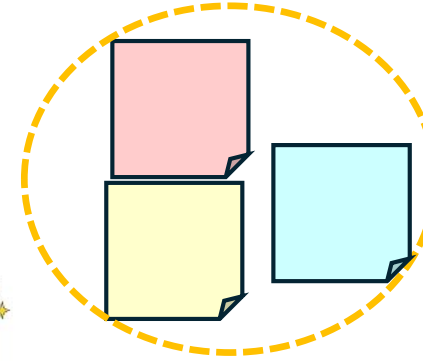
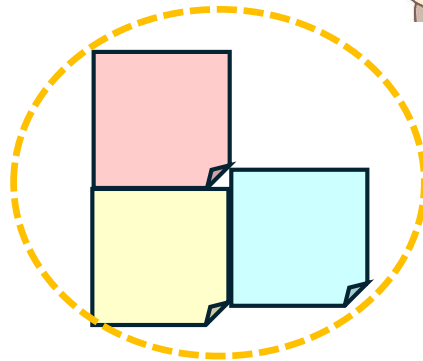


ワーク1：三里のいいところ残したいもの、普段の生活で困っていること。

被災後の住民への
メッセージ的なもの
ビジョン=目指すべき姿
を考える



普段の生活で困って
いることを復興パ
ターンで解消する
=より良い復興



例) 海と共に育む
安心と絆のまち

復興パターンへ反映

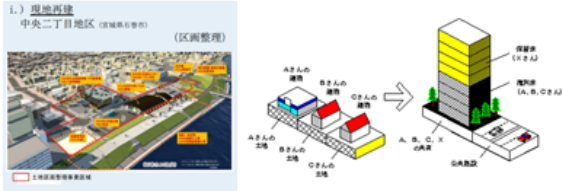
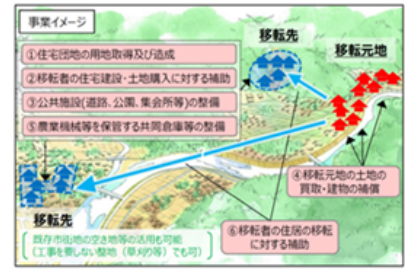
津波浸水深と復興の種類の関係性

移転・嵩上げ 2m 以上 未満 現地再建	浸水深	考え方	復興の方向	復興パターン	パターンイメージ
	3m以上 (2階以上)	大規模再編	大規模な基盤・土地利用の整備が必要	- 高台移転 (元地は建築制限) - 大規模な嵩上げ	■ 高台移転イメージ
	2～3m未満 (1階天井)	改善復興	嵩上げや道路等基盤の整備が必要	- 高台移転 - 嵩上げ - 街区単位等の嵩上げや建築規制等	■ 嵩上げイメージ
	1～2m未満	修復復興	家屋の再利用が可能 <u>浸水深の低減、避難の安全性の向上</u> <u>狭隘道路や木造家屋が密集する地区については、道路基盤整備等の検討が必要</u>	- 二線堤などの多重防御 - 嵩上げ	■ 現地再建・多重防御イメージ
	0.3～1m未満	現地復興	家屋の再利用が可能となる軽微な被害 <u>避難対策と合わせた現地復興</u>	- 浸水深の軽減対策 - 既存の居住機能の確保	■ 現地復興イメージ【浸水深の軽減対策】
	0～0.3m未満	現状維持	建物の被害は少なく、復興後の津波安全性は高いため 現状維持	現状の居住機能の維持を前提	■ 現地復興イメージ【浸水深の軽減対策】 出典:水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン(令和3年5月, 国土交通省 都市局 水管理・国土保全局 住宅局)

※ 住宅の復興パターンについては、これまでの都市基盤整備が概成していることから、**原則現地再建を基本**とする。また、東日本大震災等での建物被災状況を踏まえ、**浸水深2m超を基準として、高台移転も復興パターンの選択肢として検討**する。

※ 農地や商業地については現地再建を基本とするほか、浸水深2m以上のエリアも候補として立地を検討する。

復興パターンにおける事業手法の内容

	現地再建	嵩上げ	移転
ポイント	・ 住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ➔ 道路基盤の整備と共同化等による安全な居住空間の確保	・ 住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ➔ 甚大な被災が想定される地区で面的嵩上げにより津波安全性の高い住宅地を復興	・ 甚大な被害が想定される箇所からの高台や内陸への移転による、安全な居住地の確保コミュニティの維持
主な活用事業	・ 市街地再開発事業，土地区画整理事業 権利変換による共同床の取得 ・ 災害査定による原形復旧 	・ 土地区画整理事業 換地による公共施設整備と宅地利用増進 	・ 防災集団移転促進事業 元地の売却と安全な宅地の取得 
効果【メリット】	・ 現在の生活再建，コミュニティの維持 ・ 土地利用の高度化，最適化(集約化) ・ 国等の支援措置の活用	・ 現在の生活再建，コミュニティの維持 ・ 土地利用の最適化(集約化) ・ 国等の支援措置の活用	・ 安全な場所への移転による，生命や財産の安全性確保 ・ 国等における支援措置の活用
課題【デメリット】	・ 合意形成の長期化，整備の長期化 ・ 権利変換などの負担 ・ 居住・経営形態の変化 ・ 行政における財政負担や事業成立性	・ 合意形成の長期化，整備の長期化 ・ 減歩など土地の負担 ・ 行政における財政負担	・ 合意形成の長期化 ・ コミュニティの分断 ・ 利便性の低下

復興パターンの検討～主要イメージ

【地区の被害特性】

- 津波浸水被害については、ほとんどが浸水深 2 m 未満であり、2 m 以上は一部
- 大半のエリアが浸水深 2 m 以上となる種崎地区の対策がポイント
- 地区内で公用地を活用した移転用地が確保可能

復興ビジョン

海と共に育む 安心と絆のまち

海岸線や港湾に面した市街地の特性を活かし、海の利便性を生かした工業団地や港、さらに園芸農業を再生させるとともに、災害に強いまちづくりにより、人々が再び集まり、交流し合う温かいコミュニティの形成を目指す。

【第1案】 嵩上げ案



- 種崎地区を嵩上げ対応により現地復興

【第2案】 移転対応案



- 種崎地区の移転により、新たに地区内に高台等を整備

復興パターンの検討

【復興パターンのまとめ】

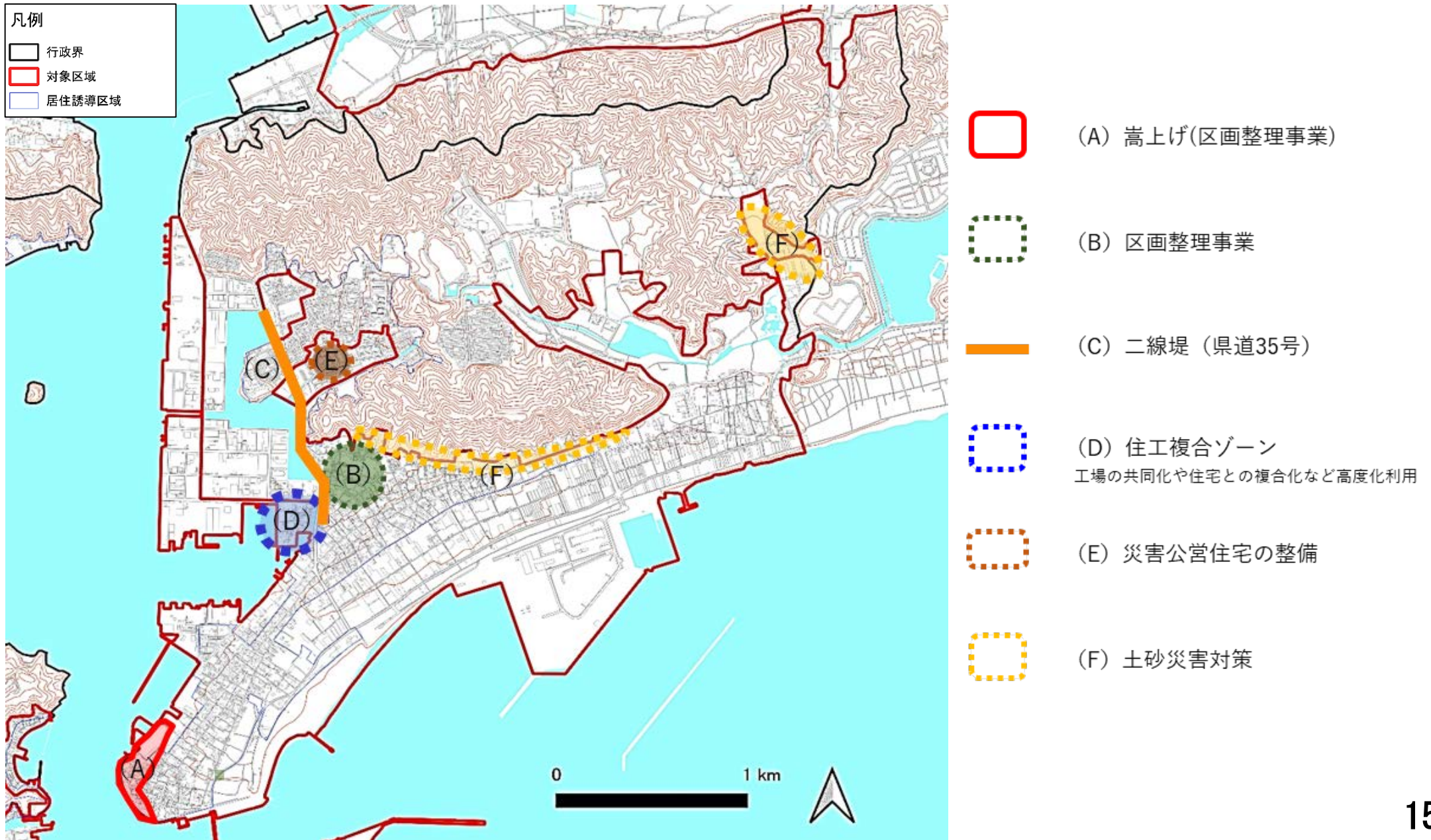
復興パターン	1 案 嵩上げ案	2 案 移転対応案	1・2 案共通（仁井田・十津）
ポイント	・ 住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 → 甚大な被災が想定される地区では嵩上げにより、津波安全性の高い住宅地を復興	・ 種崎地区の甚大な被害が想定される箇所の高台移転によるコミュニティの維持 （移転先は仁井田公園周辺と三里中学校周辺を想定）	・ 住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 → 道路基盤の整備と嵩上げを含む宅地の利用増進の実現
活用事業	・ 土地区画整理事業（嵩上げ） 	・ 防災集団移転促進事業 ・ 移転元地の公園事業（災害危険区域） 	・ 土地区画整理事業（仁井田） ・ 道路嵩上げによる二線堤の整備（仁井田・十津）
メリット	・ 現地での生活再建、コミュニティの再構築 ・ 防災機能等の安全性向上 ・ 土地利用の最適化(集約化)が図れる	・ 安全な場所への移転による、生命や財産を守ることができる。 ・ 移転先で集落機能を再編し、コンパクトで暮らしやすいコミュニティの形成が図れる	・ 現地での生活再建、コミュニティの再構築 ・ 防災機能等の安全性向上 ・ 土地利用の最適化(集約化)が図れる
デメリット	・ 合意形成の長期化 ・ 整備の長期化 ・ 減歩など土地の負担 ・ 周辺の住宅環境の悪化の恐れ	・ 移転候補地の土地の確保 ・ 自然環境の悪化 ・ 高齢者への生活環境への影響	・ 合意形成の長期化 ・ 整備の長期化 ・ 減歩など土地の負担 ・ 周辺の住宅環境の悪化の恐れ
事業期間	△ （被災から7～8年）	○ （住宅建設着手まで被災から4～5年）	△ （被災から7～8年）
個人負担 ※注1	△ （土地減歩あり。負担は原則なし。）※注2	△ （元地の売却等により宅地取得。住宅建設は個人負担）	△ （土地減歩あり。負担は原則なし。）※注2

※注1：個人による個別嵩上げの場合、東日本大震災では支援の実績があります。

※注2：建物が全壊の場合は異なります。

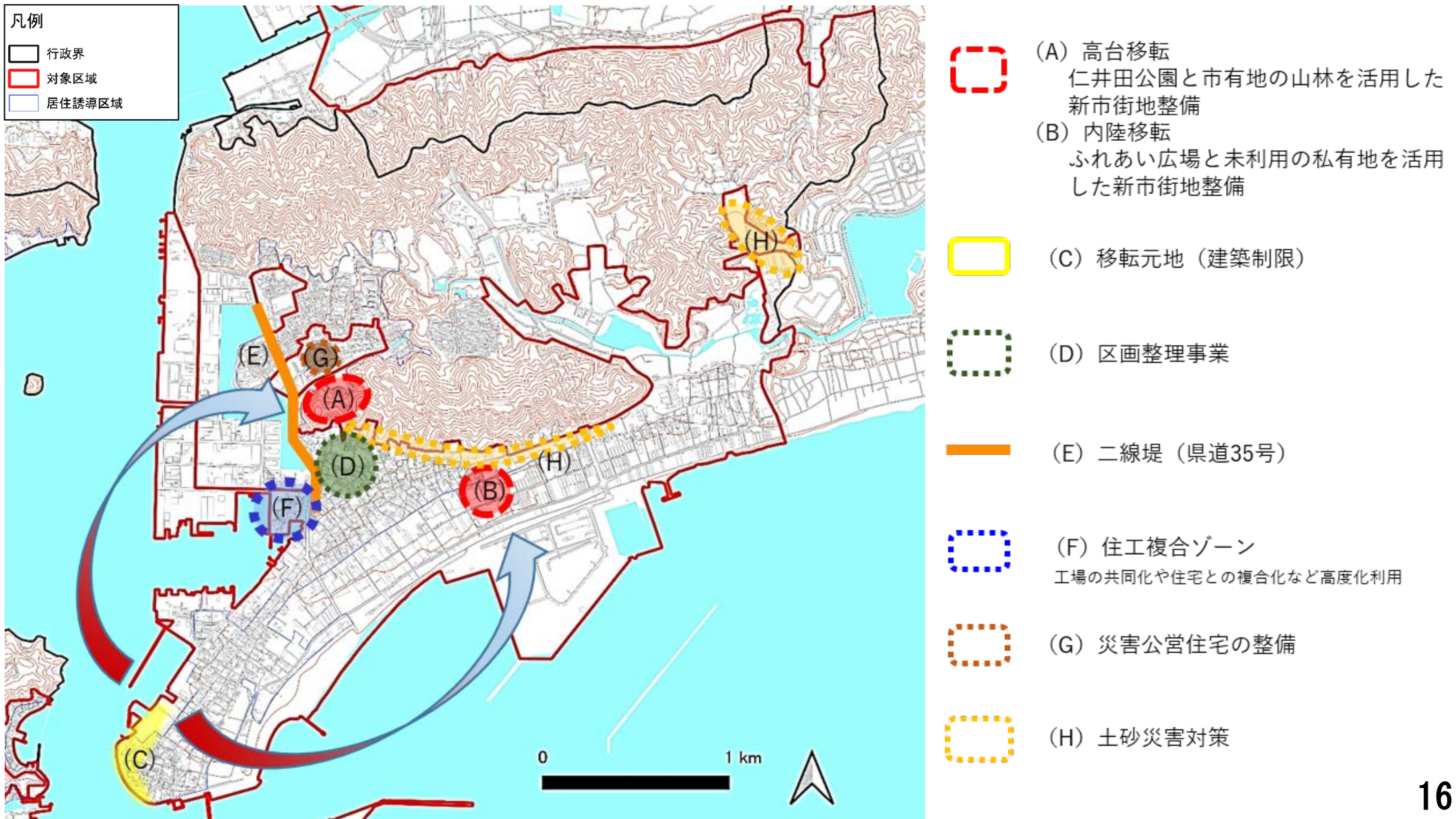
第1案
嵩上げ案

- 全体の主な方向性 **住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持**
- ・種崎地区の現地再生(甚大な被災が想定される地区で面的嵩上げにより津波安全性の高い住宅地を復興)
 - ・地区の安全性の向上
 - ・まちの迅速な復興と**再生(高度利用化等)**



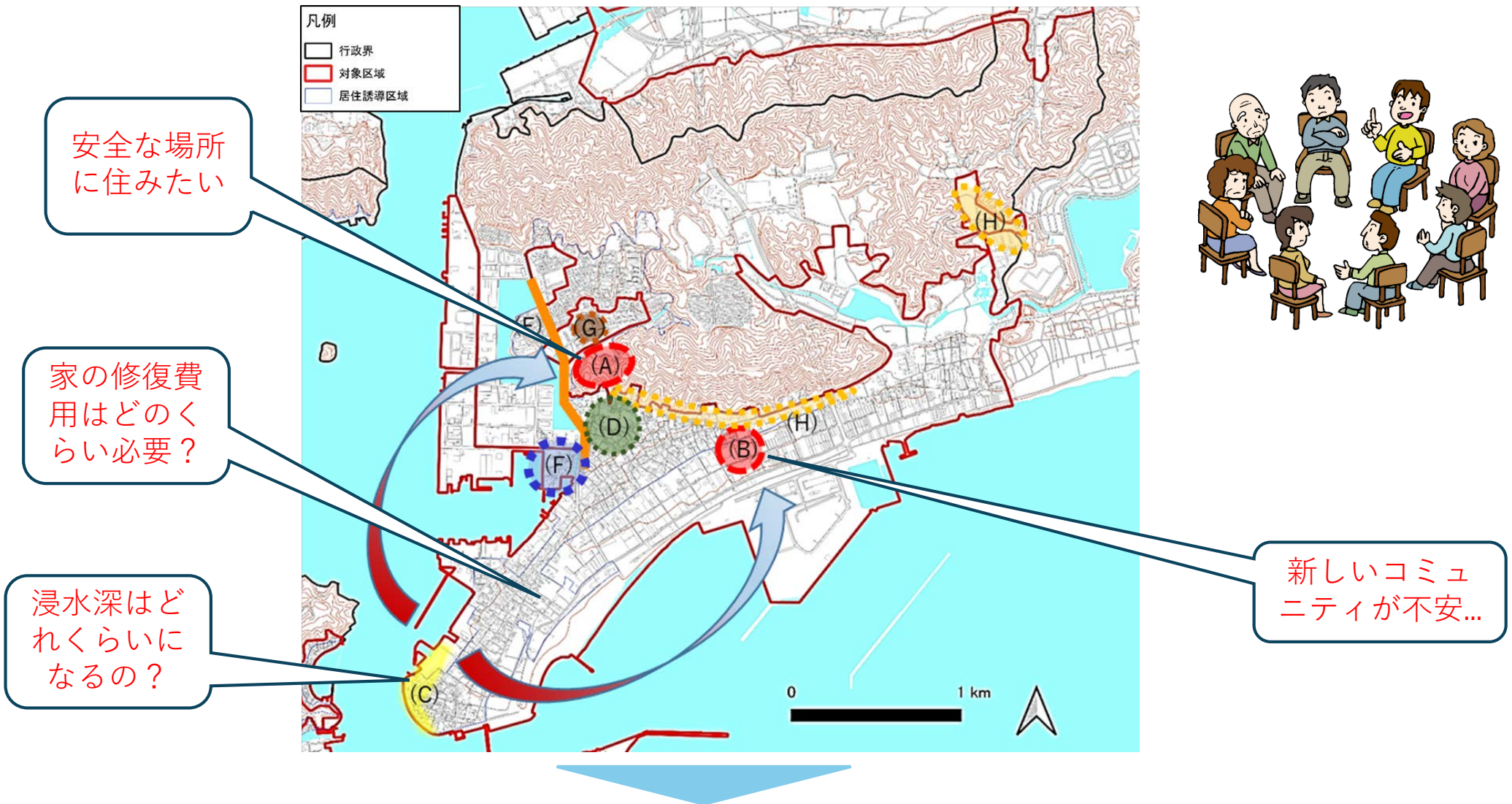
第2案
移転対応案

- 全体の主な方向性 高台移転によるコミュニティの維持
- ・甚大な被害が想定される箇所(種崎地区)の高台移転によるコミュニティの維持(移転先は仁井田公園周辺と三里中学校周辺想定)
 - ・地区の安全性の向上
 - ・津波浸水からのまちの迅速な復興



さあ、みんなで話し合ってみよう！

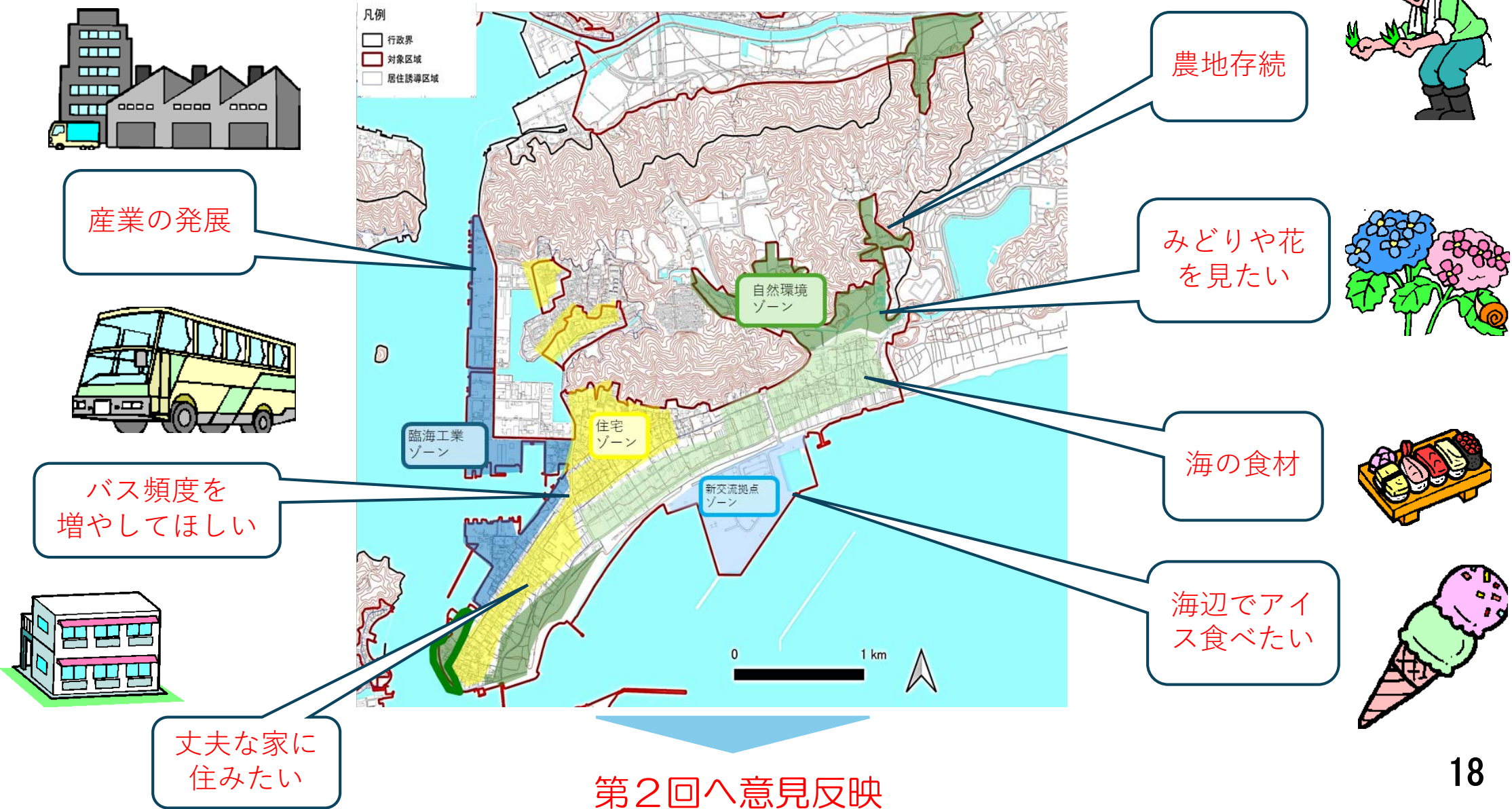
ワーク2：復興パターン2案について、意見を共有しましょう。



第2回へ意見反映

さあ、みんなで話し合ってみよう！

ワーク3：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう！



次回開催のご案内

第1回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 日時：10月中旬～11月上旬 | } 決定し次第、
案内を送付いたします。 |
| 開催場所：未定 | |
| 実施内容（予定） | |
- ・ 第1回の振り返り
 - ・ 意見交換1：目指すべき姿＝ビジョンについて
 - ・ 意見交換2：修正復興パターン・ゾーニングについて
 - ・ ワーク4：速やかに復興するために必要なことについて、
意見を共有しましょう。
 - ・ まとめ

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォームでも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。